

## 平成 2 8 年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成 2 9 年 4 月 1 3 日

研究・研修課題名	No6. 日本糖尿病療養指導士資格認定更新、島根県糖尿病療養指導士資格更新・資格取得のための研修会、学会参加 No96. 糖尿病療養指導士資格認定更新のための学会及びセミナー参加 No98. 糖尿病療養指導士資格認定更新の為の研修会、学会参加
研究・研修組織名（所属）	所属：糖尿病ケアサポート委員会 総括責任者：杉本 利嗣
研究・研修責任者名（所属）	No6. 守田美和（内分泌代謝内科） No96. 矢田里沙子（栄養治療室） No98. 端本洋子（栄養治療室）
共同研究・研修者名（所属）	(栄養治療室) 端本洋子、矢田里沙子 (看護部) 石川万里子、田中沙枝子、佐中みどり (検査部) 竹内志津枝、石原智子、谷口由紀 (薬剤部) 陶山登之、後藤貴樹、岩元陽香 (リハビリテーション部) 伊藤郁子 <b>日本糖尿病療養指導士資格取受験者</b> (検査部) 福間麻子、(看護部) 赤木友美、 (リハビリテーション部) 野口瑛一、(薬剤部) 曾田重人 <b>島根県糖尿病療養指導士認定更新者</b> (栄養治療室) 平井順子、板倉弘美 <b>島根県糖尿病療養指導士資格取受験者</b> (看護部) 藤井奈々子

### 目的及び方法、成果の内容

#### ①目 的（800字程度）

日本糖尿病療養指導士の資格維持には、糖尿病患者の療養指導業務従事だけではなく、5年間で糖尿病療養指導研修（学会参加）20単位、自己の医療職種研修（学会参加）20単位の取得と、「日本糖尿病療養指導士認定機構主催の認定更新のための講習会」参加が義務づけられている。

また、島根県糖尿病療養指導士の資格維持には糖尿病に関する研修会・学会参加20単位取得が義務付けられている。

上記の講習会・学会に参加する事により、資格維持ならびに糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識習得、さらに高度な専門的知識を取得する。それにより院内の糖尿病治療の質を向上させる。

#### ②方 法（800字程度）

本教育研究助成により、日本糖尿病療養指導士認定更新と島根県糖尿病療養指導士認定資格取得のための学会、研修会に参加した。

- 島根県糖尿病療養指導士第9期認定研修会受講 平成26年10月～平成28年10月  
受講者：藤井奈々子（看護師）
- 糖尿病療養指導士資格取得eラーニング受講

- 受講者：野口瑛一（理学療法士）
- 糖尿病療養指導士資格更新 eラーニング受講  
受講者：石川万里子（看護師）、田中沙枝子（看護師）、端本洋子（管理栄養士）、矢田里沙子（管理栄養士）、後藤貴樹（薬剤師）
  - 糖尿病療養指導士資格取得受験 平成 29 年 3 月 5 日 岡山  
受験者：野口瑛一（理学療法士）
  - 第 20 回日本病態栄養学会年次学術集会 平成 29 年 1 月 13～15 日  
参加者：端本洋子（管理栄養士）

### ③成 果（データ等の図表を入れて 2000 字程度）

島根県糖尿病療養指導士認定研修（2 年間プログラム）を終了した看護師 1 名が研修を終了し、認定試験に合格した。日本糖尿病療養指導士の認定試験を新たに 1 名（理学療法士 1 名）が受けた。日本糖尿病療養指導士有資格者 5 名が資格更新の為の eラーニングを受講した。

日本糖尿病療養指導士、島根県糖尿病療養指導士の有資格者は、本教育研究助成により、学術集会参加や更新プログラム受講により、資格維持のみならず、糖尿病患者さんへの療養支援に関する知識・技術の向上を図る事ができ、日々進歩する高度な専門的知識を習得する事ができた。さらに、糖尿病療養指導士としての自覚を再認識し自身の役割についても再認識した。

これにより、糖尿病診療の質の向上につながり、糖尿病患者教育もより質の高いものを維持する事が可能となった。さらに、糖尿病ケアサポートチームで行っている「誰でも参加できる糖尿病教室」「世界糖尿病デー ブルーライトアップ」の啓発活動において、糖尿病予防・治療推進のための啓発活動をするために、リーダー的役割を果たし、その力を発揮し地域医療に貢献した。ブルーライトアップイベントにおいては、当院の糖尿病療養指導士が出雲市内のコメディカルスタッフのリーダー的存在を務め成功に導き地域に貢献した。

#### 【日本糖尿病療養指導士受験者】

現在、当院リハビリテーション部内には糖尿病療養指導士の資格を取得している理学療法士が 1 名在籍しており、島根県内においても 2 名しか取得したものがいない。そのため糖尿病療養指導士の資格を取得することで数少ない理学療法士の視点から糖尿病に対する療養指導に貢献できることは十分にあると思われる。そのため、糖尿病教室などの病院内における活動だけにとどまらず、院外の患者会や世界糖尿病デーなどの啓発活動に参加、協力し貢献をしていくことができる。

#### 【島根県糖尿病療養指導士研修終了、認定試験合格者】

講義や実習などから糖尿病に対しての様々な知識や技術を身に付けること、様々な職種（看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師など）、異なった施設の方とディスカッションする事ができた。糖尿病の患者さんの“疾患や治療だけ”をみるのではなく、たくさんの視点で、“全人的に”みていくことの大切さや難しさを学んだ。今後、自分自身が常に学んでいく姿勢や、多職種と連携していくこと、CDE の研修で出来た仲間とも一緒に患者さんに関わっていくことを大切にしていきたい。自分は病院勤務の中で、糖尿病患者さんへの教育や、病棟スタッフの育成など出来ることから積極的にすすめていきたいと思う。

#### 【e-ラーニング受講者】

○講義や確認テストにて自分の不得意分野を確認することができた。特に栄養指導は不得意であると感じた。講義は自分が納得できるまで受講でき何回も受講することで学習できた。今まで自分が不得意の分野では、つい栄養士任せにしたりする傾向があったが、日々の会話時に患者から質問される内

容には、その都度きちんと回答するか、後日確認して回答するように心がけ、栄養指導にも力を入れるようにしてききたいと思う。また、病棟のスタッフからも内服などについての質問を受けるようになったので、きちんと回答できるように努めたい。

○講習では病態や治療の基本的なことを再確認できた。また具体的で多様な症例をもとに、自分ならどう伝えるか、サポートするかを実際の患者に向き合う場面をイメージしながら考えることができた。栄養士として食事面ばかりに目が行きがちだが、今回の講習で他職種の意見も確認することができ、療養指導士として患者の生活環境や家族支援、使用している薬や適切な運動強度についても頭に入れながら対応していくことが必要であると感じた。

当院でも症例にあったような腎症の進んだ患者や、高齢で認知機能低下のある患者、小児1型糖尿病患者に関わることも多く、栄養士だけでは解決できないことや判断に悩むこともあるが、そのような時は他職種に相談し、情報を共有することで、患者一人一人の問題にチームで対応していくことが大切であると感じた。今回学んだことを実際の場面でも活かし、効果のある療養指導を行っていきたい。

○糖尿病治療の基本の再確認から最新の治療まで学習し、療養指導士としての関わり方、必要なスキルを習得し、現場での療養指導に即決した内容であった。

○糖尿病療養指導士の認定を受けてはや4年、その間に熊本宣言や新薬など糖尿病を巡る環境は大きく変化してきました。

私自身その変化をフォローしてきたつもりであったが、認定更新者用講習会を受講してあらためて自己学習の偏りを認識し、包括的に学習する事の大切さを実感した。認定更新者用講習会は糖尿病療養指導士を更新するために必須の研修ではあったが、ここで学んだことを糖尿病療養指導士の更新に生かすだけでなく、日々の病棟活動にも生かしていきたいと思う。

○様々な症例をチームで関わる視点で学習でき田。設問に従い適正な食事量や運動量の計算をすることができた。日常では他の職種にまかせっきりになっているが、基本的なことを再確認する事ができた。同時に、日常利生で上手く役割分担が出来ている事も実感、再確認できた。時間調整ができず、受講者が個々で視聴したが、みなで集合してディスカッションできればより学びが深まったのではないかと考える。

#### 【日本病態栄養学会教育セミナー参加】

病態栄養の基礎知識、栄養アセスメントおよび栄養ケアプラン、栄養補給法、病態栄養と栄養療法について基礎から実践まで学ぶことができた。また日本病態栄養学会年次学術集会では、糖尿病など複数の基礎疾患を多くかかえる高齢者の激増を背景に病態栄養学に精通した管理栄養士が看護師や薬剤師などの他職種と連携してテーラーメイドな栄養療法を実践することが求められてきている中、自己研鑽していくことが非常に重要であること、専門職としてのスキルの向上につとめることが必要であることを改めて感じた。

\* 島根県糖尿病療養指導士認定機構

島根県糖尿病療養指導士認定証 受領済 【2016年9月1日】